

基盤薬学特論Ⅲ		選択	秋学期	1単位
担 当 者 〔研究分野〕	東 伸昭〔生化学・糖鎖生物学・免疫学〕 高橋勝彦〔代謝生化学・分子生物学〕			
到達目標・目的	生体内で個体多様性を表現し分子間相互作用を担う機能分子として糖鎖と酵素を取りあげ、その生理機能を生化学・分子生物学的な立場から解説する。疾患研究における病態モデル動物の作製と解析について解説する。			
受講心得・準備学習等	生化学・分子生物学の基礎知識を復習する。 プレゼンテーションの理解に努め、積極的に質疑に参加する。			
事後学習・復習等	自分自身の研究と将来にとって、講義内容がどのように関係するか考察する。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		講義を中心に、質疑応答を交えながら進める。	
回	項 目	内 容	担当者
1	糖鎖生物学	糖鎖生物学概論	東
2		細胞外環境を形作る糖鎖	東
3		個体多様性・分子多様性を表現する糖鎖	東
4		バイオ医薬品に関する講義（仮）	櫻井
5		シグナル伝達と細胞内輸送を調節する糖鎖	東
6		糖鎖の医療への応用	東
7		ヘルスケア産業に於ける産学連携のオープンイノベーションとベンチャービジネス	中島
8	病態生化学	病態モデル動物の作製	高橋（勝）
9		病態モデル動物の解析・応用	高橋（勝）
10		（検討中）	外部講師(予定)

成績評価の方法	出席状況、レポート提出を総合的に判断し、評価する。
成績評価の基準	レポートにおいて、講義内容を理解し、講義で取り上げた課題に対する論理的な考察ができているかどうか、という点を指標に評価する。
教科書	必要に応じ適宜プリントを配付する。
参考書など	コールドスプリングハーバー 糖鎖生物学 第2版（丸善）
そ の 他	